

# 白山市

# 蔵山ぶらり史跡マップ

槻橋城が蔵山の名の語源となった



↑8号線

↑野町駅

山側環状線↑

森島町

明島町

六郎杉(塚)

蔵山公民館

小柳町

45

## 1 六郎杉(塚)〈白山市名勝〉

平安時代末この地を治めた林六郎光明の墓と伝わる。林六郎光明は源氏平氏の戦いの場であった倶利伽羅峠の戦いで木曾義仲に付き京まで従軍した。直木賞作家高樹のぶ子の映画化された小説「透光の樹」でもこの地が紹介されている。



日御子駅より徒歩5分

## 2 白山市立蔵山公民館(旧加賀藩塩硝蔵跡)

白山市立蔵山公民館のあたりには、幕末(元治元年から明治元年)まで加賀藩の塩硝蔵があった。加賀藩は幕末、白山麓や富山県内の五箇山山中で密かに塩硝を生産し、当地や金沢市の土清水で硫黄と調合し火薬を生産し、商人を通して金沢市の宮腰(大野町)から火薬を各地に輸出していた。当地では、土壁で囲まれた堅牢な工場があったと思われるが明治元年に大爆発をおこし1里四方(約4km)の家屋が破壊されたと伝わる。



## 3 手叩き清水

白山を開山した泰澄が、白山へ登る際に、身を清めたとされる霊水。泰澄が、白山の方向に向かって拝んだところ白山の神があらわれ、「巽(東南)の方向に向かうがよい」とお告げがあり、泰澄は白山へ無事登頂できた。以後、村人はこの井にしめ縄を張り大切にしたが、水が一時少なくなり、村人が白山の方向へ向かって柏手を打って拝んだところ、柏手を打つたびに清水がこんこんとわき出たので「手叩き清水」と呼ぶようになった。

江戸時代、加賀藩十二代前田斉広の奥方が病気に苦しんでいたところ、ここへ来てこの水の湯につかったところ、病気が治り、このお礼として観世音菩薩が寄進された。



## 4 観音堂

山岳密教で祀られる金剛夜叉明王像を祀る。金剛夜叉明王とは、金剛杵(こんごうしよ)の威力で人間の心の障害をとり除く明王。元々、槻橋神社の上にあったお堂を、明治時代に集落の中へ移し観音堂とした。



日御子駅より徒歩10分

## 5 槻橋城跡〈白山市史跡〉

月橋町の背後の御蔵山の尾根部にある中世山城跡。室町時代の文明期、ここに加賀国の守護富樫氏に仕える槻橋氏がここで城を構えていた。しかし、長享2年(1488)年、加賀国で勃発した一向一揆により、守護富樫正親とともに高尾城で槻橋氏は滅ぶ。この城跡では、焼米が出土し、ここに米蔵があったとされ「御蔵山」と呼ばれるようになった。蔵山地区の語源の地である。



本丸跡まで:日御子駅より徒歩20分

## 6 槻橋神社

応神天皇、大日貴を祀る。元々、八幡神社であったが、明治15年に現在の社名に改めた。



日御子駅より徒歩12分

## 7 一閑寺〈白山市史跡〉

江戸時代、天保年間加賀藩13代藩主前田斉泰の命により岩に掘られた高さ約6.5mの不動明王像を祀る。加賀藩初代藩主前田利家の側室岩が隠居した寺で加賀藩の梅鉢紋を瓦にあしらう。天地目の様相を持つ不動明王は、藩主の悪くなった目を平癒する願いからだと言われる。



鶴来駅より徒歩5分

## 8 白山堂〈白山市史跡〉

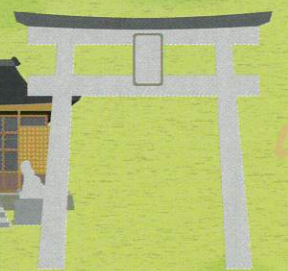
一閑寺の背後の山、通称「寺の山」「千目(せんめ)」に位置する。現在、一字の小祠があり、山岳密教で祀られる宇賀弁財天を祀る。

白山を開山した泰澄が、一夜祈祷修験したと伝わる。獅子吼の語源である四宿のうちの1宿(しゅく)である。ここから、尾根つたいに仙の堂、胡麻堂、淨行堂へ続く修験の道が続く。



鶴来駅より徒歩10分

白山市蔵山地区の歴史と触れ合いながらゆっくり散策してみませんか。



鶴来高校

白山警察署

鶴来庁舎

月橋

半蔵山

西鶴

鶴来中学校

鶴来駅前

●白山市役所  
鶴来支所

鶴来局

天狗橋詰

天狗橋

↓白峰

# 槻橋城縄張り図

槻橋城は、加賀国守護富樫氏に仕えていた槻橋氏の城と伝わる。

長享2年（1488）の一向一揆により、槻橋氏は富樫政親とともに高尾城で滅ぶ。

この城跡では焼米が出土し、米蔵があったとされ、「御蔵山」と呼ばれるようになった。蔵山地区の語源の地でもある。

